

季節の言葉

わたしは イエスさまの
はなしがきたくて 教会
へゆく。

わたしは イエスさまの
はなしがきたくて 教会学
校へゆく。

神戸教會々報

No. 90 1978年10月29日発行
日本基督教団 神戸教会
牧師 岩井 健作 牧師館 電話 (351) 4757
神戸市生田区下山手通6丁目56 電話 (341) 2598
振替神戸 25063 印刷所 株式会社 精文舎

- 第一日曜 聖餐式
- 第一火曜 定例役員会
- 第二日曜 婦人部例会
- 第三日曜 青年部例会
- 第四日曜 壮年部例会
- その他 教会学校教師会
家庭集会

ぶどう園のいちじくの木

ルカ福音書 一三章六節—九節

岩井健作

福井達雨さんの九冊目の「わたしはイエスさまのはなしがきたくて教会へゆく」のことは少しも触れられませんが、多分、ぶどう園のことだから、少々出来不出来はあっても収穫があるというの当然のことと考えられているのかも知れません。

私たちが、それぞれ務めや仕事にたずさわって、さらに奉仕や実践を担っています。そしてその評価を「ぶどうの収穫」の尺度でします。成功、進展、再生産があったかどうか。例えば、よい実業家、よい教師、よい社会活動家等。発展的に多くのものを生み出すその連続性が評価されます。それはまた心地のよいものでもあります。しかし、この譬が求めている実とは、ぶどう園の中のいちじくの実です。何故いちじくの木が必要であり、その実が求められるのかは今も問われないことにはなりません。しかし、実を求められても、それが見あたらないことだけは確

かです。私たちの務め、仕事、奉仕、実践のうちに、イエスによって成し遂げられた実をどれだけ宿らせ得るのかという問題です。私たちが成すことに情熱を傾ければ傾ける程、自由になるでしょうか、こだわりが多くなるでしょうか。希望をもっているでしょうか、つぶやくでしょうか。十字架を負って人に仕えているでしょうか、仕えられたりおもりをしてもらったりしているのでしょうか。どれ一つを考えても、実らしきものは夜空の星の輝きのように彼方にあります。いちじくの実を求められているのが「教会」だとしたら、それは厳しいことですが、譬では、園丁が主人にとりなして「ことしも、そのままにして置いてください。そのまわりを掘って肥料をやって見すから」(八節)と記されています。慰



1978年5月28日 岩井牧師就任式の後に